

4 救出・救護訓練

建物などの下敷きとなった要救助者の救出・救護方法を習得する。

(1) 倒壊建物からの救出訓練

- (ア) 廃材やベニヤを利用して、倒壊建物をつくり、中に要救助者を模して人形等を入れておく。
- (イ) 救出にあたっては、要救助者に対して声を掛け安心感を与える。
- (ウ) 倒壊建物に進入する場合は、余震の有無や足場の安全などを確かめ、二次災害の発生に注意する。
- (エ) 要救出者の状況を確認し、作業の妨げとなる部分を、のこぎり、掛矢、ハンマーなどを使用し破壊し取り除く。
- (オ) ジャッキがある場合は、ジャッキで持ち上げる（ない場合は斧やバールで壊す）。
- (カ) 隙間が崩れないように角材（長さ 40～50cm）で補強する。



(2) 転倒家具からの救出訓練

- (ア) 家具やロッカーなどを倒し中に要救助者を模して人形等を入れておく。
- (イ) 救出にあたっては、要救助者に対して声を掛け安心感を与える。
- (ウ) 木材・バール（木材の太さは 10cm 以上）をテコに、あるいはジャッキで倒壊物に隙間をつくる。場合によっては、転倒物の一部を破壊し、中の物を取り出すなどして重量を軽くする。
- (エ) 隙間が崩れないように角材（長さ 40～50cm）で補強する。

(3) 重機を使用した救出訓練

個人や事業所が所有する重機での救出訓練。どこにどの重機があるか把握しておくことで、災害時の救出活動に役立ちます。

また、所有者以外で操作できる人も見つけておきましょう。

(4) 救護訓練 (応急手当)

(ア) 骨折している場合

骨折している箇所に副子を当て、骨折部分を三角巾などで固定する。
副子がない場合は、代用品 (雑誌、傘、割り箸等) などを使用する。



(イ) 出血している場合

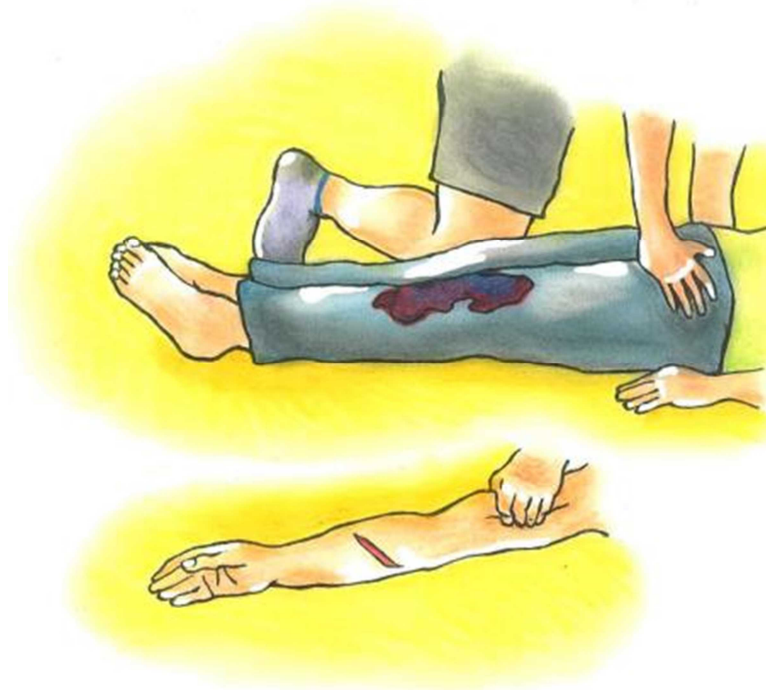
(直接圧迫法)

出血している場合は、きれいなガーゼやハンカチを当て、強く押さえる。出血が止まらない場合は、更にガーゼを重ね幅広い包帯やタオルで縛る。



(間接圧迫法)

足や腕などから出血したときは、親指や手のひらで傷口から最も心臓に近い動脈を強く押さえ、血の流れを止める。傷口の直接圧迫だけで不十分な場合に行う。



(止血帯法)

傷口を強く押さえても、出血が止まらない時は、以下の対応をとる。

- ①傷口の少し上(5cm以上)を、タオルなどの丈夫な布で緩めに結ぶ。
- ②結んだ布の下に折れない棒などを差し込み、この棒を血が止まるまで静かに回す。
- ③出血が止まったら、棒が重ならないようにハンカチで固定する。

